

# はじめに

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は、平成15年10月1日より独立行政法人として新たな歩みを始めました。事業をより効果的・効率的に実施するために、さまざまな改革を進めておりますが、その一環として、平成16年5月6日より大幅な機構改革を行い、「文化芸術交流」「日本語」「日本研究・知的交流」の3グループに事業部門を再編成いたしました。（日本語教育事業を行う「日本語グループ」の機構図については、巻末をご参照ください。）

これにともない、これまで『日本語国際センター紀要』として発行してまいりました本書につきましても、『国際交流基金日本語教育紀要』として衣替えをし、本部日本語事業部より発行することとなりました。

本紀要には、当基金の日本語教育事業に携わる日本語教育専門員・専任講師、客員講師、派遣専門家、職員等が、日々の活動の中で取り組んできた問題や課題をまとめた「研究論文」（オリジナルな研究成果をまとめた理論的・実証的論文）、「研究ノート」（研修、教材開発などの実施過程でまとめられた中間研究報告等）、「報告」（国際交流基金が実施する事業に関する報告や海外の日本語教育関係機関の視察報告等）、そして新設の「実践報告」（研修、教育、教材開発などの実践の目的、特色、経過、成果等について紹介、分析した報告）として執筆したものの中から、編集委員会による厳正かつ公平な審査の下、計17編を選定し掲載しました。今回から投稿資格を当基金の海外派遣日本語教育専門家に広げたことにより、各国から実践に基づくさまざまな報告が寄せられ、本紀要はより多様な内容となっております。

当基金が実施した「2003年海外日本語教育機関調査」では、全世界の日本語学習者が235万人を超え、前回1998年調査より12.1%増加していることが明らかになりました。このような状況を踏まえて、私ども関係者一同は、それぞれの職域や担当の中で、日本語教育のさらなる発展のための努力を重ねてまいります。

本紀要に対する各方面の皆様からの忌憚のない御意見、御批判をいただければ幸いです。

2005年（平成17年）3月

国際交流基金